

令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

秋田県大館市

自治体名：秋田県大館市

担当課名：教育委員会 学校教育課

電話番号：0186-43-7112

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積913.7km ²
人口 (R7.2.1)	65,492 人
公立中学校数	市立 8 校 県立 1 校
公立中学校生徒数	市立 1 3 1 1 人 県立 1 3 8 人
部活動数	文化部 1 8 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

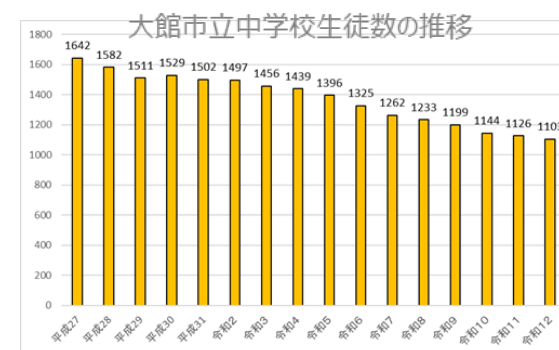
本市において、急激に進む生徒数の減少は、文化部に所属する生徒数の減少のみならず、学校の統廃合や教員数の減少等へとつながり、学校を活動単位とする従来の部活動の形態のままでは、生徒のニーズに応じた充実した部活動を継続させることが極めて困難な状況となっている。そこで、本市では文化部活動の地域移行の実証事業を通して、吹奏楽における課題（地域の指導者の確保、運営の財源確保、学校・教員や生徒・保護者の意識改革等）の解決に向けての取組を試行して4年が経過した。その中で、可能なこと、不可能なことが明らかとなり、徐々に本市なりの地域部活動のスタイルが構築されつつある。

また、市内にはプロの演奏家や講師、吹奏楽指導者がいないため、生徒が専門的な指導を受ける機会は少なく、地域移行に向けて指導者を確保することにも課題を抱えてきた。そこで本事業を通して、見守り指導者や練習協力者など様々な形で部活動に関わる機会を設けることで、地域の社会人吹奏楽団の理解が広がり、協力体制が構築されつつある。現在では、見守り指導者や練

習協力者などの経験を重ねる中で、地域の指導者が着実に育成されている。

市では、国のガイドラインや県の推進計画に基づき、令和4年11月に「大館市中学校部活動の地域移行に係る情報交換会」を実施し、令和5年12月には「大館市中学校部活動地域移行推進連絡協議会」を設置している。令和7年3月に、「大館市部活動地域展開推進計画」を策定した。

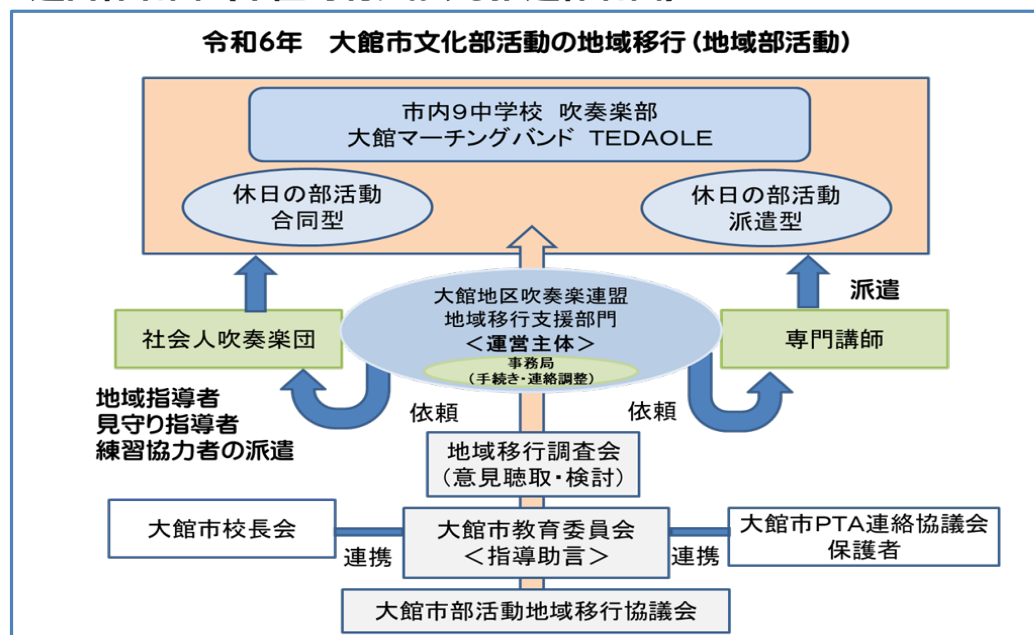
現在、本市の教育理念であるふるさとキャリア教育の理念のもと「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」というコンセプトの実現に向けて、学校と地域が連携して進める「地域展開」の地域文化クラブ活動を、令和13年度の完了を目指して進めている。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎市教育委員会

- ・運営団体や学校、関係機関と連携しながら、地域移行を推進する。
- ・大館市中学校部活動地域移行推進連絡協議会を開催し、関係者から意見を聴取する。
- ・運営状況を把握し、必要に応じて随時、指導助言をする。
- ・事業の予算執行
- ・県教育委員会との連携

◎首長部局

- ・教育委員会の方針「地域展開」への理解
- ・地域展開を推進するための財源保障
- ・スポーツ振興課との連携、情報共有

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|--|
| 令和6年4月 | 大館地区吹奏楽連盟総会
地域移行に係る研修 |
| 令和6年5月 | 実証事業の開始
派遣型クラブ活動の開始
(～2月) |
| 令和6年10月 | 合同型クラブ活動①の講習会
(楽器講習会)
市教育委員会による状況把握、
指導者へのヒアリング |
| 令和6年12月 | 大館市中学校部活動地域移行推
進連絡協議会 |
| 令和7年1月 | 合同型クラブ活動②の講習会
(基礎合奏講座)
生徒・保護者へのアンケート調査 |
| 令和7年2月 | 大館市中学校部活動地域移行推
進連絡協議会
事業の総括、まとめ
報告書、成果報告書の作成 |

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	市立 8 校、県立 1 校	実施した地域クラブ総数	10 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9 部活
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	39 人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
派遣型クラブ	文化芸術団体	吹奏楽	8 校に 計 43 回	9：00 ～ 12：00	1～3 年	5～2 月	各中学校 音楽室等	33 人	4 人	なし	コンクール：部活動
合同型クラブ	文化芸術団体	吹奏楽	年 2 回	9：00 ～ 12：00	1・2 年	10 月 1 月	中学校 1 校	25 人	7 人	参加費 年 1200 円	コンクール：部活動
地域クラブ	一般団体	マーチングバンド	週 2 回	(木) 18:30～ 21:00 (土) 9:00～ 12:00	1～3 年	4～3 月	地区公民館	3 人	4 人	月会費 2000 円	大会：地域クラブ

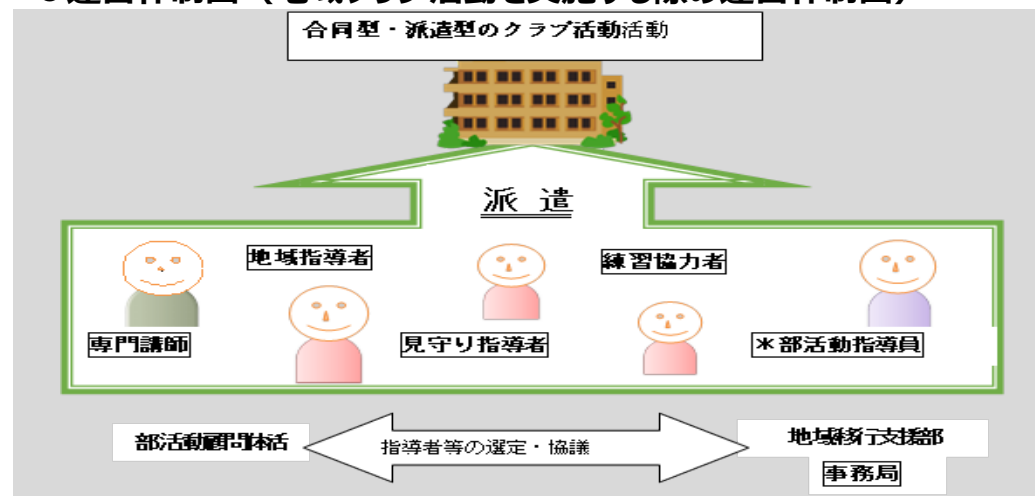
2.実証内容と成果

主な取組例

●地域合同型・派遣型クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	大館地区吹奏楽連盟 地域移行支援部門
期間と日数	合同型：年2回（10月・1月） 派遣型：5月～2月 ●各校の希望による ●年間派遣数43回
指導者の主な属性	県内の吹奏楽指導者、演奏家等
活動場所	合同型：市内中学校から1校を借用 派遣型：希望する中学校
主な移動手段	保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	1,200円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：関係団体、関係機関への説明や依頼、連絡・調整

●指導者（専門講師 10名、地域指導者 8名）

役割：生徒や見守り指導者への吹奏楽の合奏、楽器の奏法等の指導

●運営事務局 7名

役割：運営全般、講師や指導者等の選定・派遣、事務・予算執行

●運営補助者（見守り指導者）11名

役割：指導補助、講習会等の運営補助

●練習協力者 14名

役割：各中学校に出向き練習の補助、生徒と一緒に演奏

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会学校教育課の担当が総括コーディネーター、大館地区吹奏楽連盟の地域移行支援部門の専任担当がコーディネーターの役割を果たしながら、常に連携を図り、活動の把握と指導助言、体制構築を行っている。

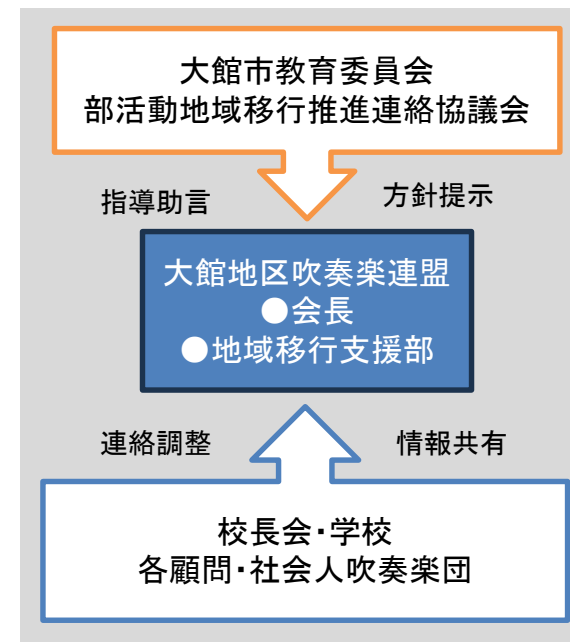
実施内容や責任主体の説明は、市教育長と地区吹奏楽連盟会長の連名で、各中学校長宛、参加保護者宛に通知により周知をしている。

取組の成果

地区吹奏楽連盟会長や事務局長と、地域移行支援部が常に情報交換をしながら、課題に対応してきた。また、現場のニーズに応じて、外部からの専門講師を選定・派遣し、実際の活動の視察を行い、現場での声や実状を把握している。専門講師や地域指導者と生徒とのマッチングがスムーズにできるようになった。

各校には、他校の活用実績を紹介したり、活用方法の助言などを随時行ったりすることで、学校現場の理解が進み、地域の指導者等の受け入れが進んだ。

指導者等には、事務手続きの負担をかけないために、事務専任を必要な時期に依頼することで、スムーズな書類作成や謝金の支払い、納税ができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

- ※コーディネーターは指名しておらず、地域移行支援部が担っている。
- ・専門講師の選定・依頼地域指導者・見守り指導者・練習補助者の選定・派遣
- ・講習会や指導関係者の研修会の企画・実施
- ・事務手続き、予算執行事務
- ・市教育委員会、関係団体との連絡・調整
- ・成果のまとめ、報告書作成

今後の課題と対応方針

平日の部活動を指導する顧問の人事異動によって、本事業への理解度が異なることを踏まえ、年度初めには丁寧な説明が必要である。現状を把握するために、顧問や地域の指導者、生徒、保護者からのヒアリングを随時行っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

本市では、教員に代わって、吹奏楽を専門的に指導できる人材の不足が大きな課題だった。そこで、地域の人材育成を重点的に取り組んできた。専門講師については、県や地区吹奏楽連盟から情報を得て、現状やニーズに沿う指導者を選定し、県内から来てもらっている。その指導内容を、地域指導者、部活動指導員、見守り指導者が参観、共有することにより、市内9中学校が共通する指導を日常的に取り入れる。また、見守り指導者や練習協力者の経験を重ねることで、新たな地域指導者の発掘、育成、拡大に努めている。

地域指導者の研修としては、専門講師が生徒に指導している場面に立ち会い、顧問との指導法の共有を図ったり、生徒への接し方や声のかけ方を学んだりできるようにしている。

人材バンク等

特に人材バンクは作成しておらず、吹奏楽連盟や顧問から情報・推薦を得て、指導者や講師を選定・依頼する。

※今後は、秋田県教育委員会が作成した「指導者等一覧」も活用予定

登録者属性

- ・元教員、吹奏楽指導経験者
- ・吹奏楽指導者
- ・演奏家
- ・愛好家
- ・社会人吹奏楽団員
- ・部活動指導員

種目

- 吹奏楽
- ・全体合奏指導
 - ・楽器の奏法
(各管楽器・木管楽器・打楽器ごと)

資格有無

- ・教員免許
- ・特に資格は有しない

取組の成果

社会人吹奏楽団から見守り指導者の経験を重ね、その中から、部活動指導員や地域指導者へと立場を変えていくよい流れができてきた。また、若手の人材発掘のため、気軽に練習協力者として派遣することにより、指導者としての発掘にもつながっている。

生徒の練習を支える様々な立場の地域人材がチームとして機能している。

今後の課題と対応方針

平日の部活動を指導する顧問の人事異動によって、本事業への理解度が異なることを踏まえ、年度初めには丁寧な説明が必要である。

また、地域の指導者に対する研修も、新たな情報を随時取り入れながら、特別な配慮を必要とする生徒もいることから、個々の特性についての情報共有と支援の在り方についても研修内容に盛り込んでいく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

コーディネーター役が市教育委員会と県や地区の吹奏楽連盟との定期的な情報共有を行い、意見を運営や活動に活かしている。また、令和6年度から運動部活動との情報共有により、市として運動・文化とも同一步調で取組を進めている。

社会人吹奏楽団とは、活動があるたびに派遣を依頼するため、頻繁に連絡を取り合い、その都度、状況や感想、意見をもらっている。

取組の成果

運営や指導については、市内の社会人吹奏楽団5団体が市の地域移行の方針を理解し、全面的に協力を得ている。4年にわたる積み重ねによって様々な実績を積み、今後は地域クラブとして中学生の受け皿づくりを検討している団体もある。

新たな連携先としては、市商工会議所の調査研究団体による社会人を含めたスポーツ・文化芸術クラブ活動の検討が始まり、受け入れ可能な団体の独自調査とリスト作成、企業の理解促進や協力依頼、自主財源の確保、送迎に利用できる新たな交通手段の模索に動き出している。年4回の会議に、教育委員会からの委員も出席するとともに、教育委員会の地域移行推進連絡協議会にも委員として出席し、情報共有と折り合わせを行っていく。行政と学校、家庭だけの取組ではなく、地域や企業を巻き込み、将来的には地域社会全体の仕組みづくりへと発展していくことを期待しながら、連携を強化していきたい。

バス等の運行実績

※実績はなし。今後の検討課題である。

バス等の運航経費・収入

※実績はなし。今後の検討課題である。

今後の課題と対応方針

令和7年度以降は、社会人吹奏楽団の更なる協力を得て、コンクール等の運営にも参画する協力体制を模索する。

企業との連携を進め、現役世代の会社員が仕事と地域クラブ活動の指導を両立できる体制も今後の検討課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

現在、他市町村との直接的な取組はないが、市内にある県立中学校と連携していることから、近隣市町村在住の生徒も対象としている。また、近隣市町村在住で、大館市の地域文化部クラブ活動を希望する場合には、広域的な受け入れは可能である。

他市町村には必要に応じて情報提供をするとともに、県の連絡協議会で事例発表、他市町村との意見交換を必要に応じて行っている。

各自治体の役割

他市町村と具体的な協議はしていないが、地区の吹奏楽連盟間では広域連携が話題になっており、協議が今後進むと考えられる。

移動手段

保護者による送迎を基本とする。

事務局運営の方法

運営については、今後、連携する他市町村教育委員会との協議、他地区吹奏楽連盟との話し合いが必要となる。

取組の成果

県立中学校も事業に加わったことで、市立中学校と情報共有しながら、市内が同一歩調で地域展開に向かうことができた。市立と県立が合同練習会やコンサートを企画するなど、新たな組み合わせでの取組も生まれている。

今後の課題と対応方針

吹奏楽部員数の減少により、生徒からの参加費だけでは、専門の講師を必要数を確保することが難しくなる。近隣市町村との合同事業・講習会も視野に入れた協議が必要である。

	市内吹奏楽部員（１～３年）	市内吹奏楽部員（９月以降）
令和５年度	１３７人	８３人
令和６年度	１１３人	７４人

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項【派遣型】

各校の休日部活動に、顧問が希望する「専門講師」または、「練習協力者」を派遣する。

取組の成果

地域移行から地域展開へと方向性を修正したことにより、学校部活動と地域クラブ活動の連携がより密になっている。各校での練習場面に社会人吹奏楽団員の練習協力者が多数参加するようになり、小人数でもパート練習が可能になったり、学校行事や演奏会への協力により演奏の幅が広がるなどの成果につながっている。

また、練習協力者を介して、小規模校同士の合同練習や、コンサートの企画など、学校単位ではできない複数校の合同活動へと発展してきている。

活動の詳細

参加人数	85人	指導者数	専門講師 6人、地域指導者 1人 見守り指導者 7人（練習協力者 14人）
属性	吹奏楽指導経験者、演奏家、社会人吹奏楽団員		
具体的な内容	・コンクールに向けた外部からの専門的な指導 ・楽器の基本奏法の指導、パート練習への参加 ・行事やコンサートに向けた練習への協力、または本番での演奏賛助		
子供の声	●自分たちの演奏に、練習協力者の大人が入るだけで全然違う演奏になり、合奏の楽しさが味わえる。 ●年度途中の楽器替えがあつて、同じパートの先輩もいないので困っていたが、練習協力者に丁寧に教えてもらえてよかった。 ●コンクール前に専門の先生にご指導いただき、課題だった部分が納得して解決できた。		
関係者の声	●地域の学校のために役立ちたいと思っていたので、声をかけてもらって嬉しい。（練習協力者） ●自校だけでは不足するパートを練習協力者に補ってもらうことで、文化祭など行事で幅広い演奏に挑戦できるようになった。（顧問） ●継続して来てくださる練習協力者と生徒たちの間に信頼関係ができてきた。（顧問）		
運営経費	●謝金等 - 専門講師：1時間あたり5,100円＋旅費またはガソリン代 - 練習協力者：1時間あたり1,000円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

【合同型①】：楽器講習会

地域移行支援部の運営による市内全中学校吹奏楽部対象のパート別楽器講習会。

今年度初めて、特別な配慮の必要な生徒を対象に想定したパートも設定した。

【合同型②】：基礎合奏講座

地域移行支援部と吹奏楽連盟の事業担当者との共同運営による市内全中学校吹奏楽部対象の基礎合奏の講習会。

取組の成果

生徒にとっては専門的な指導を格差なく受けられる貴重な機会となっている。加えて、顧問や地域の指導者たちも参観することで研修を兼ねており、これによって、平日と休日の指導の共通理解にもつながる。

活動の詳細

参加人数	1 1 3 人	指導者数	専門講師 6 人、地域指導者 5 人 見守り指導者 1 4 人																	
属性	吹奏楽指導経験者、演奏家、社会人吹奏楽団員																			
具体的な内容	合同型① 楽器ごとの扱い方、基本奏法、基礎練習曲等 合同型② 各楽器の特徴、合奏の基本、効果的な練習方法																			
子供の声	● その楽器の専門の先生は分かりやすく教えてくれるので、上達した感じがする。 ● 自分の学校では、トランペットは一人なので教え合ったり、相談したりできない。他校に同じパートの友達ができて嬉しかった。次に会えるのが楽しみ。 ● 普段はアンサンブル状態だけど、たくさんの人数で吹奏楽ができて、そのハーモニーに感動した。																			
関係者の声	● 楽器ごとに丁寧に見てあげる時間はなかなか持たないでいるので、楽器替えのこのタイミングでのパート別の指導はとても助かる。（顧問） ● 見守り指導者として参加することで、色々な講師の方の指導を間近で見ることができて、とても参考になる。特に、生徒への伝え方、認め方など。（見守り指導者）																			
運営経費	合同型① <table><tr><td>参加費徴収</td><td>53, 100</td></tr><tr><td>専門講師謝金・旅費等</td><td>147, 171</td></tr><tr><td>地域指導者謝金</td><td>34, 804</td></tr><tr><td>見守り指導者謝金</td><td>26, 400</td></tr><tr><td>事務謝金</td><td>22, 680</td></tr></table>	参加費徴収	53, 100	専門講師謝金・旅費等	147, 171	地域指導者謝金	34, 804	見守り指導者謝金	26, 400	事務謝金	22, 680	合同型② <table><tr><td>参加費徴収</td><td>10, 800</td></tr><tr><td>専門講師謝金・旅費等</td><td>22, 478</td></tr><tr><td>見守り指導者謝金</td><td>21, 600</td></tr><tr><td>事務謝金</td><td>13, 230</td></tr></table>	参加費徴収	10, 800	専門講師謝金・旅費等	22, 478	見守り指導者謝金	21, 600	事務謝金	13, 230
参加費徴収	53, 100																			
専門講師謝金・旅費等	147, 171																			
地域指導者謝金	34, 804																			
見守り指導者謝金	26, 400																			
事務謝金	22, 680																			
参加費徴収	10, 800																			
専門講師謝金・旅費等	22, 478																			
見守り指導者謝金	21, 600																			
事務謝金	13, 230																			

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組の成果

令和5年度は、受益者負担を年間100円とし、市の歳入にしていたが、令和6年度はそれに加えて、地域合同型の講習会においては900円、200円の参加費を徴収している。保護者は、現在の受益者負担額に理解を示しており、普段は受けられない専門的な指導を肯定的に受け止めている。

今後の課題と対応方針

事業の収入のほとんどが国からの委託費となっている状況であり、今後、市、連盟の自主財源の確保も検討していく課題である。

受益者負担は、どの程度の金額が可能か試行段階であるが、専門的な講師から指導を受けられる講習会については、生徒も保護者も理解を示しており、令和7年度以降の参加費について、設定金額を検討中である。

各校顧問からは、年に数回の貴重な機会となるため、受講パートの数を減らすことなく設定してほしいとの声があった。

【大館市の事業収入内訳】

費目	種 別	収 入 額	割 合
	文化庁実証事業委託費	709,465	98.8%
	都道府県単費	0	0.0%
	市区町村費	0	0.0%
	地域団体等自己負担	2,647	0.4%
	受益者負担	5,900	0.8%
	その他収入	0	0.0%
総 計		718,012	

【吹奏楽連盟地域移行支援部の事業収入内訳】

費目	種 別	決算額
収入	市区町村委託料	646,865
	自己調達	
	団体等自己負担	2,647
	受益者負担	63,900
	その他収入	0
総 収 入		713,412

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

地域合同型クラブ活動については、大館地区吹奏楽連盟が会場となる中学校を借用することで理解を得ている。学校の施設等については、所属教員1名が、地域移行支援部からの依頼によって、有償の運営スタッフとして参加している。

取組の成果

学校以外の公共施設の活用も検討はしているものの、生徒の移動や楽器の保管・運搬を考えると、学校施設の活用が最も合理的である。その上で、会場校の所属教員の負担を軽減できるよう、地域支援移行部や見守り指導者による役割分担を多くし、運営の充実を図った。

今後の課題と対応方針

学校の理解は得られており、会場校の教員の下承を得て、令和7年度も同様に学校を利用する。しかし、会場校の担当者には負担もかかることから、地区公民館の活用方法もシミュレーションしていく。

ク：その他の取組

取組事項

少子化により、吹奏楽部の人数が10人以下の中学校については、令和7年度から数校の合同部活動を試行していく。運営や大会出場等に係る課題を明確にし、以降の取組に反映させる。

取組の成果

今年度は、小規模校2校がコンクールのみ合同で参加する事例があった。地域の指導者も加えながら、複数の顧問での指導に、合同での指導や運営での課題が明らかになった。それを今後の合同部活動の指導、運営に生かすことができる。

今後の課題と対応方針

小規模校が年間を通して合同体制で取り組むためには、練習会場の確保と保護者送迎の負担が増えることとなる。小規模校でも、これまで通りに吹奏楽の楽しさを体験させるためにも、移動・送迎の実情を把握し、解決に向けて検討や試行をしていく。

2.実証内容と成果①



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動は学校が担うイメージは学校側に根強く残っていたが、4年間の積み重ねにより、学校が地域の協力を得て、チームで指導に当たる体制に変わりつつある。これによって教員の働き方改革も徐々に進み、令和5年度の1か月当たりの時間外在校時間は、中学校で39.2時間となっており、秋田県平均の46.5時間を下回っている。また、事業に関わる指導者及び運営スタッフを合わせた人数も令和5年度の28人から、令和6年度は46人と1.6倍となっていることから地域の協力を広げながら、本市なりの地域展開が進んできていると捉えている。

地域の社会人吹奏楽団の中には、中学生の受け入れ準備をする団体もあり、地域としての理解も進み、今後、地域展開の受け皿としても期待される。

指導を希望する顧問と地域の指導者が共に生徒の指導に当たりながら、市民誰もが生涯にわたって吹奏楽に親しむ環境を広げ、地域の音楽文化を醸成したい。

●成果の評価

- 顧問が引率や運営に関与せず地域移行支援部と地域の協力者で「地域合同型」の講習会を開催し2年目となった。顧問や生徒のニーズに応じた専門講師の選定については顧問の意見を優先し、地域移行支援部が依頼から当日の運営までを担うことができた。10のパートやグレード別に少人数で、より専門的な指導を受けられたと生徒から好評だった。また、市内全中学校が同じ指導を受けることから、地域全体の演奏力や意欲の向上にもつながっている。事務局や指導補助についても、概ねスムーズに運営できたと、今後の地域合同型に向けての足がかりとなった。顧問からは引率しないと講習内容を把握できないとの不安の声はあったものの、地域による運営・事務については、業務負担軽減になったと高評価だった。
- 社会人吹奏楽団の協力を得て、専門講師の指導補助や講習会の運営に当たる「見守り指導者」の経験者が4年間で20人を超え、地域の指導者や部活動指導員の人材確保につながっている。また、専門講師の指導補助をすることが指導法の研修を兼ねることから、指導者としての資質向上にもつながっている。
- 顧問や地域、保護者の理解が進み、様々な試行に協力が得られた。事業を評価しながら、それぞれの立場で何ができるかを明確にし、地域と学校が連携して、よりよいスタイルを確立していこうという意識が高まった。
- 社会人吹奏楽団員で、指導に自信がなくても、小規模校に出向き生徒と一緒にパート練習をする「練習協力者」は、気軽に事業に関われることから、新たな協力者の発掘や若手の指導者育成につながっている。

●今後に向けて

- ・少子化による部員数の減少が顕著であり、毎年、部活動を取り巻く環境は変化していく。その時々状況に応じることのできる柔軟な仕組み、体制が必要である。
- ・社会人吹奏楽団の協力だけではなく、保護者や企業などへ協力者・団体を広げていく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（地域合同型の講習会） ※複数回答可 ※受講者59名

Q.専門講師から学ぶ講習会はどうでしたか？

専門的な技術などを教えてもらい自分のためになった。	89%
習ったことを生かして、学校でも練習したい。やる気が出た。	89%
緊張した。難しくて理解できなかった。	2%

Q.顧問の先生が引率しないことに心配はありませんでしたか？

同じ学校の友達がいたので安心だった。	63%
地域の見守り指導者がいたので大丈夫だった。	40%
不安だった。	11%

Q.他校の生徒と一緒に学ぶ機会はどうでしたか？

よい刺激になった。	47%
同じパートの人が複数いて心強い。	39%
知らない人の中で緊張した。	32%

Q.地域クラブ活動に求めることは何ですか？

自身の技術力の向上	44%
他校の生徒との交流	25%
専門性の高い指導が受けられる	19%

●参加者の声

中学2年生

楽器の吹き方のほか、椅子の座り方、姿勢も指導を受けた。色々な指摘を受けて勉強になっている。自分でも音が良くなっていると実感している。

中学2年生

学校の部活動では、少人数で活動しているが、合同の講習会に参加すると、大人数でのハーモニーは厚みを感じることができて嬉しい。

見守り指導者（社会人吹奏楽団員）

指導経験豊富な専門講師は、中学生に伝わるように話すのが上手だ。指導場面に一緒に参加することは有意義で、毎回、新しい発見がある。

全ての楽器を専門的に指導できる先生はなかなかいない。社会人吹奏楽団が入ることで、技術指導の手伝いができればと思う。

顧問

専門講師や地域の方々が指導に入ってくれて、とても助かっている。上手な演奏を間近で聴かせてくれる指導者がいることで、生徒の反応もよく、理解が早いことは有難い。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【専門講師による地域合同型の「楽器講習会」】



【専門講師による地域合同型「基礎合奏講座」】



【派遣型 練習協力者とのパート練習】



【派遣型 見守り指導者による指導補助】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

吹奏楽関係者、
団体への説明
講師派遣型の
試行

令和4年

教育委員会に
担当者設置
運営を吹奏楽
連盟に委託

令和5年

学校、保護者
への説明
地域合同型の
試行

練習協力者の新
設による指導者
育成
事務スタッフ設置

令和6年

社会人吹奏楽団
の協力拡大
運営と指導の協
力体制体制

令和7年

複数校合同活動
の試行

●ステークホルダー

市立中学校、地域クラブ
社会人吹奏楽団、地区吹奏楽連盟
専門講師（吹奏楽）

●経過

地域クラブであるテダオーレ事務局が、事業
運営を受託し、大館市の現状から可能な
活動から試行を始める。

●実施にあたって生じた課題

部活動に地域からの指導者を入れることへ
の顧問の抵抗感が大きい。

●実施内容、工夫した点 等

外部講師として、顧問が納得できる専門
講師を選定して派遣、その際には指導補
助となる見守り指導者をセットで各校に派
遣する。

●ステークホルダー

市立・県立中学校吹奏楽部
地域クラブ、社会人吹奏楽団
地区吹奏楽連盟、専門講師

●経過

地域合同型の講習会を、地域移行支
援部の運営で試行する。顧問は引率し
ないという初の運営・参加方法とする。

●実施にあたって生じた課題

各校の休日部活動に、派遣型の専門
講師や見守り指導の受け入れは進むが、
少数の固定化した人材に限られる。

●実施内容、工夫した点 等

新たに練習協力者を設置することにより、
地域の若手も気軽に派遣型の休日部
活動に足を運べる環境をつくる。

●ステークホルダー

市立・県立中学校吹奏楽部
地域クラブ、社会人吹奏楽団
地区吹奏楽連盟、専門講師

●経過

地域合同型の講習会への

●実施にあたって生じた課題

派遣型の活用には学校間で温度差が
まだある。

●実施内容、工夫した点 等

各校の顧問へ可能な活用方法を随時、
情報提供や提案する。地域移行支援
部が事務手続きを簡略化して、活用し
やすくするなど顧問の負担感軽減につ
なげる。

3.今後の方向性

